

中島の耕地整理

耕地整理は明治期の農村の進歩性を代表するものの一つである。1899（明治32）年に耕地整理法が公布され、愛知県においては翌1900年国庫補助金を、主として耕地整理奨励にあて、各郡、1個所ずつ模範耕地整理地区を設置する計画をした。それを受け、1900（明治33）年11月中島が愛知県下に先駆けて施行をした。なぜ中島かと言うと、その背後には郷土の偉人であり衆議院議員であった早川龍介の存在があった。彼は1885（明治18）年農事視察研究で北米に渡航し耕地整理の必要性を痛感していた。その後、国会での金子農商務大臣の耕地整理法案通過に最大の努力を払い、全国に率先して自らの郷土中島の耕地整理を計画した。その龍介の指示で中島村農会長の鶴田勝蔵らを中心とした大事業となった。勝蔵は1900（明治33）年11月11日に村農会評議員を招集し、耕地整理の着手の方法や順序などを調べるため石川・静岡県の実地への視察を次の5名で行った。その5名は（中島）鍋田恒雄、鶴田勝蔵、早川治三郎、（高畑）大竹文左衛門、（安藤）杉浦惣左衛門であった。そして同年12月8日この5名の報告を受け満場一致で耕地整理を施行することを決めた。12月12日に発起人15名が決まり準備が進められ、12月24日に国から認可された。この事業は先例のない大事業で会議は紛糾した。これを龍介や勝蔵、治三郎らが寝食を忘れ万難を排し調停に努め、事業の促進を図ったということであった。その結果、反対は緩和され目的を貫徹し、良好な成果を上げることができた。耕地整理は180haの耕地を整理する8億円規模の大事業であった。その成果としては、次のようになった。

- ・農地を乾田・二毛作ができる水田にし、1個所にまとめて耕地を広げた。
- ・米の収穫面積が1.3倍、収穫高が1.4倍に、麦の収穫面積が3.9倍、収穫高が4.7倍になった。
- ・菜種も栽培可能になり、全国1位の生産量になった。

この耕地整理の実績について、1903（明治36）年に内国勸業博覧会に出品し褒状を、1906（明治39）年に総合共進会に出品し、2等賞銀牌を受けた。現在、八幡社にある耕地整理の記念碑（1905（明治38）年、当時は井龍の県道沿いにあった）は、農商務大臣が篆額（てんがく）し、同次官が撰文している。このことから本事業は全国的に顕著であったことを示している。この耕地整理は、明治時代の中島の人々が全国に先駆けて行った、まさに画期的というべき大事業になった。

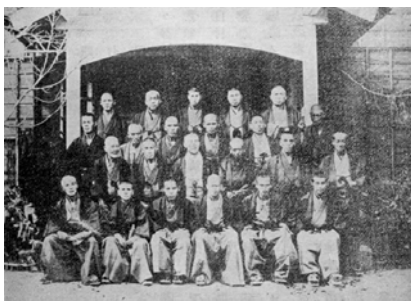
1905（明治38）年に耕地整理記念碑が八幡社に建立された。1928（昭和3）年には耕地整理の事務長であった早川治三郎の碑が八幡社に建立された。





役職名	氏名	役職名	氏名
整理委員長	早川龍介	土地価格評定	杉浦藤助
同 副委員長	鍋田恒雄	及土地割付係	鋤柄治右衛門
同 同	鶴田勝蔵	同 同	太田瀧三郎
同 事務長	早川治三郎	同 同	鋤柄與右衛門
同 会計係	神原勘助	同 土木係	市川文兵衛
同 同	太田卯吉	同 同	杉田文六
同 庶務係	早川大助	同 同	早川林吉
同 同	早川定之助	同 同	赤松徳之助
同 同	石川種吉	同 同	本田利右工門
同 同	太田次郎兵衛	同 同	高橋徳次郎
土地価格評定	大竹文左衛門	同 同	鶴野音助
及土地割付係	杉浦喜助		

整理委員名簿



整理委員



耕地整理記念碑 20150727
1905（明治38）年建立



早川治三郎の碑 20150727
1928（昭和3）年建立



本項は以下の資料を引用している。

[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平
 発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
 印刷所 ブラザー印刷株式会社

[わたしたちのふるさと 六ツ南114選]

監修者 総代会長 平井 良美
 社教委員長 近藤 武美
 著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6年児童 114名
 （平成25年3月19日卒業）
 編者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6年担任
 権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
 発行日 2013（平成25）年3月1日 初版発行
 印刷所 ブラザー印刷株式会社
 製本 ブラザー印刷株式会社
 発行 岡崎市立六ツ美南部小学校

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者： 渋谷 環
 発行者： 渋谷 環
 発行日：2005（平成17）年9月19日
 印刷所：ブラザー印刷（株）
 安藤川（P39）、広田川（P39、P159）、占部用水（P45）、高橋用水（P45）、
 耕地整理（碑文訓読 P64）、悠紀齋田（P129）、菜種栽培（P155）、
 各種記念碑（P174）の記述がある。